

里帰り

ケニアの学校は寮を併設しているところが小学校で5割くらい、高校になれば8割くらい。植民地だったイギリスの影響もあるようですが、実際には家の手伝いをしたり、下の子の面倒を見たり、自宅に電気がなかったりと、勉強に集中できないため。昨年小学校を卒業したリンコン、パペチュア、ジェーン。3人ともジャンプ&スマイルから約5キロの高校へ進学したのですが、女の子2人は寮に入ることになったと聞き、どうして女の子2人だけ？と素朴な疑問。ジャンプ&スマイル責任者の美智子さんに聞くと、「男子寮の完成が遅れているんですって。だからリンコンには以前寄付して頂いた自転車での通学になったの(笑)」現在、建築中らしいです。至極、ケニアらしい理由。



【高校の制服姿のジェーン(左)とパペチュア】

寮に入っていたパペチュア、ジェーンが、中休みで帰省してきました。

パペチュア： 支援者の皆さまに感謝いっぱいです。入学の支度や入学金なども支援下さり有難うございます。しっかり勉強して、将来ジャーナリストになりたいので夢が実現するよう、決して皆様を失望させないように頑張ります。

ジェーン： 両親のいない私達を支援下さり、有難うございます。私はモデルになりたいと思っているので、夢を追いかけ、将来私と同じような孤児を支援できるように頑張ります。

ジャンプ&スマイルの休日

日ごろから良く手伝ってくれているジャンプ&スマイルの子ども達ですが、休日の掃除や洗濯をより率先してやってくれるようになりましたし、入所当初は小さかった子ども達も今では立派な戦力になりました。



その掃除や洗濯に必要な水も、これまでは川へ水を汲みに行っていました。12月～4月上旬までの乾季もいよいよ終盤。その近所の川も、とうとう先日枯れてしまったとの連絡がきました。以前なら、川底を掘って、湧いて出て来る水をすくい溜めて、持ち帰っていました。しかし、現在ジャンプ&スマイルには皆さまのご支援で井戸があり、毎日の食事、洗濯や掃除にも不自由なくきれいで安全な水が使えるようになりました。本当にありがとうございます。

小学校男子寮改築工事完了



過去6年連続で、エンブ郡約450校中首位を独走している当会小学校は、入学希望者が殺到し、教室も寮も狭くなってきました。そこで、去年は教室棟を平屋から2階建てに増築し、今年は男子寮の増築をしました。

ボランティア活動レポート 2018-①



ACEF の活動を知り、実際現地で 28 年間で築いてきた活動を見て一体どれほどの時間と努力がかかったのかと圧倒され、全てが想像を超えていました。

滞在中ケニアの教育に触れる機会が多くあり、ケニアでは住む地域によって教育格差があるけれど、生徒は分からなくても手を挙げ、とても積極的な印象を受けました。反面、日本は国内どこでも同じレベルの教育が受けられるのに、どこか受動的で、受け手がそれを生かしていないように感じます。さらにケニアは国語であるスワヒリ語以外の授業は英語で行われており、グローバル社会におけるポテンシャルの高さを感じました。また、整備されていないデコボコな道の長時間移動、生活用水を川から毎日汲む少年たち、学校の昼給食を家に持ち帰り、それをあてにする家族。日本では当たり前すぎてわからなかった電気、水、食事などの有難さに気づきました。

今回の経験がただの一カ月の旅で終わってしまうのではなく、今あることに最大限に感謝し、向上心を持つ。そして自分だけが幸せを得ようとするのではなく、自分の能力を磨き、それを他者に与えていくことこそ最大の幸せであると塩尻夫妻の生き方から学びました。この経験は私にとって生きる財産であり、今後の人生に確実に影響を与えていくと思います。ケニアはまたいつか帰りたい場所です。(22 歳学生)

振込先: 郵便局から(窓口・ATM・ゆうちょダイレクト):

ゆうちょ銀行 振替口座 番号:00930-8-66355 アフリカ児童教育基金

*領収書が不要な方は、通信欄に「領収書不要」とご記入ください。

銀行から: ゆうちょ銀行 ○九九(ゼロキュウキュウ)店 当座 0066355 アフリカ児童教育基金

*銀行からの振込みの場合、氏名と金額しか確認できません。

領収書が必要な方は、住所、氏名を電話かメールでお知らせください。



発行人: 〒632-0063 奈良県天理市西長柄町 265-4 (特非)アフリカ児童教育基金の会 ACEF 代表 小椋 とも代

TEL & FAX: 0743-25-6935 電子メール: headquarters@acef-jpn.com

現地事務所 Africa Children Education Fund(ACEF) P.O.Box 1365-60100 Embu, Kenya

ボランティア活動レポート 2018-②

ACEF に出会うことができ本当に良かったと思っています。私はもともと「国際協力」や「途上国の支援」に関心があり、「アフリカ ボランティア」と検索し、様々な団体を比較検討したところ、ACEF が一番安かったので参加させていただきました。(笑)

この渡航は「自分が本当に何も保障されないような環境においても、つらい思いをしている人を助けるために人生を使いたいのか」を実際に現場で確認するのが目的でした。

アフリカという日本人にとって馴染みのない場所で食べ物、虫、トイレ事情やケニア人に苦戦しながら生活したことは、自分にとって大きな影響があり、多くを学びましたが、塩尻さん夫妻に出会えたこと、お二人から学んだことは私にとってそれ以上に価値のあるものでした。

普通にお金のために就職していく道に疑問を感じながらも、その道から外れることを恐れていた私に「ゼロからでも生きていける」ということを教えてくださいました。ご夫妻の存在に私は強く背中を押されました。

具体的に自分が今後どう動いていくべきなのかはまだわかりませんが、ケニアでの経験を「いい経験」で終わらせないようにしていきたいです。塩尻さん、美智子さん、代表の小椋さん、関わった皆さま本当にありがとうございました。(19 歳学生)



【夜、勉強部屋で宿題をみる筆者】